

## 資料 1

科学技術・学術審議会情報委員会  
次世代計算基盤検討部会（第2回）  
令和2年7月28日（火）

### 次世代計算基盤検討部会（第1回書面開催）議事要旨

令和2年5月1日（金）

出席委員（書面審議参加者：敬称略、◎は主査）

相澤 清晴（東京大学大学院情報理工学系研究科教授）  
合田 憲人（国立情報学研究所アーキテクチャ科学研究系教授）  
荒瀬 由紀（大阪大学大学院情報科学研究科准教授）  
伊藤 公平（慶応義塾大学理工学部教授）  
井上 弘士（九州大学大学院システム情報科学研究院教授）  
上田 修功（NTT コミュニケーション科学基礎研究所機械学習・データ科学セン

タ代表／理化学研究所革新知能統合研究センター副センター長）

海野 裕也（株式会社 Preferred Networks 執行役員ロボットソリューションズ  
担当 VP）

喜連川 優（国立情報学研究所長）  
後藤 厚宏（情報セキュリティ大学院大学長）  
田浦 健次朗（東京大学情報基盤センター長）  
高橋 桂子（海洋研究開発機構経営管理審議役／横浜研究所長）  
常行 真司（東京大学大学院理学系研究科教授）  
中野 美由紀（津田塾大学学芸学部情報科学科教授）  
藤井 啓祐（大阪大学大学院基礎工学研究科教授）

◎ 安浦 寛人（九州大学理事・副学長）  
山本 里枝子（株式会社富士通研究所フェロー）

以上、全委員 16 名が出席。

資料 0～5 について、事務局より音声により説明。

1. 審議事項：科学技術・学術審議会情報委員会次世代計算基盤検討部会運営規則（資料 3-1）  
書面審議に出席の全委員の賛成により承認された。
2. 審議事項：科学技術・学術審議会情報委員会次世代計算基盤検討部会の公開の手続について（資料 3-2）  
書面審議に出席の全委員の賛成により承認された。
3. 審議事項：科学技術・学術審議会情報委員会次世代計算基盤検討部会における下部組織の設置について（資料 4）

書面審議に出席の全委員の賛成により承認された。

4. 懇談事項：我が国の情報科学を支える基盤のあるべき全体像について検討を行うにあたり、検討すべき事項やヒアリングすべき分野等について（資料 5）

各委員より寄せられた意見、提案は以下の通り。

【伊藤委員】記載された内容で結構だと思いますが、しいて追加することとすれば、AI 人材育成方法でしょうか？

【井上委員】今後の普及が予想される重要アプリケーションや応用の観点から、将来の計算基盤に対する要求をヒアリングすることも重要だと考えます。例えば、ロボット研究開発基盤などが考えられます。

【上田委員】計算基盤、ネットワーク、データ処理環境といった、情報インフラについてまず検討を進めるという方針が良いと思います。

【海野委員】全体像としてはもれなく検討事項に入っているように感じます。

【喜連川委員】 covid-19 下において、堅牢な遠隔授業 IT 基盤（初中教育、高等教育）が強く求められるに至っている。検討の対象とすることが望ましい。

【高橋委員】計算基盤、ネットワーク、データ処理環境は、それぞれを強化することはとても重要であることはもちろんですが、喫緊に強化をすべき分野が存在すると考えます。それらの分野では、上記の 3 つの基盤全体をまとめて強化すべき必要があると考えます。

喫緊に強化をすべき分野として、例えば、ゲノム医療・精密医療分野、安全保障にかかわる情報・データ分野、バイオ分野をはじめとする統合イメージング分野などが挙げられます。

また、ご検討の際には、日本学術会議における第 24 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン 2020）等もご参照いただければと思います。

【常行委員】HPCI や SINET に関しては、ハードウェア整備との印象が強いように思いますが、もう少しソフトウェア整備について検討が必要ではないかと思えます。

具体的には、量子コンピュータや産業界のニーズを意識したアプリケーションソフトウェアの開発計画、国プロ等で開発したアプリケーションソフトウェアの利用を推進する仕組み、そういった中でのソフトウェア開発人材の育成、HPCI を構成する全国の情報基盤センター群の連携の仕組みなどが考えられるかと思えます。